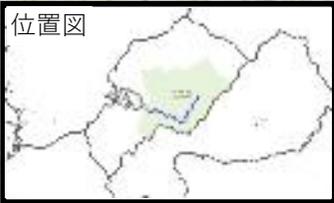


○大保川は、沖縄本島北部の大宜味村に位置し、河口の平地部には集落が形成され、平成24年9月の台風17号においては、床上・床下の浸水被害が発生しているため、整備区間の計画洪水規模の出水に対する河川整備や避難のためのソフト対策等に取り組み、流域における浸水被害の軽減を図る。

位置図



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - ・ 護岸整備【県】
 - ・ 既存ダムの洪水調節機能の強化（事前放流）【国】

- 被害対象を減少させるための対策
 - ・ 排水不良による浸水を防ぐため集落内の排水施設改良【大宜味村】
 - ・ 開発行為に伴う流出抑制対策【開発事業者】



- 被害の軽減、早期復旧、復興のための対策
 - ・ 簡易型カメラ、危機管理型水位計整備【県】
 - ・ 洪水・高潮浸水想定区域の指定【県】
 - ・ 防災メール及び防災無線等を活用した情報発信【県、大宜味村】
 - ・ ハザードマップ作成【大宜味村】
 - ・ 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進【大宜味村】

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

二級水系
流域治水プロジェクト

大保川水系流域治水プロジェクト
【ロードマップ・効果】

沖縄県

大保川では、上下流の流域全体を俯瞰し、県、村、住民や民間企業等が一体となって、以下により「流域治水」を推進する。

【短期・中期】 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策では、既存ダムの洪水調節機能の強化に伴う事前放流、護岸整備の河川改修を集中的に実施。

被害の軽減、早期復旧、復興のための対策では、簡易型カメラ、危機管理型水位計の整備及び防災メール及び防災無線等を活用した情報発信による防災体制の強化を図る。

【中長期】 河川改修後の河道状況を把握し堆積土砂除去を行うなど、各施設において適切な維持管理を実施。

被害の軽減、早期復旧、復興のための対策では毎年フォローアップを実施し、防災体制の改善・強化に繋げていく。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期（概ね5年間）	中期（概ね10～15年間）	中長期（概ね20～30年間）
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	・護岸整備	県			
	・既存ダムの洪水調節機能の強化（事前放流）	国			
被害対象を減少させるための対策	・排水不良による浸水を防ぐため集落内の排水施設改良	大宜味村			
	・開発行為に伴う流出抑制対策	開発事業者			
被害の軽減、早期復旧、復興のための対策	・簡易型カメラ、危機管理型水位計の整備 ・洪水・高潮浸水想定区域の指定	県			
	・ハザードマップの作成 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進	大宜味村			
	・防災メール及び防災無線等を活用した情報発信	県、大宜味村			

大保川水系
流域治水プロジェクト

浸水被害軽減・逃げ遅れゼロ

【凡例】

- 破線：事業中、取組中
- 実線：維持管理、フォローアップ等